



「名数研の魅力」



先日、初任研の代表授業がありました。代表授業の先生の頑張りもさることながら、子どもたちが先生と共に頑張り、脳に汗をかきながら算数・数学の世界に没入していく姿にとっても感動しました。また、研究員研修では熱心に取り組む中でどうしてもうまくいかない時期が誰しにも訪れます。そのようなときの研修日には、研究員同士の協議においてそれぞれ研ぎ澄まされた視点での意見を伝え合うことで、沼からはい上がり霧が晴れた表情になる光景を何度も目にしました。初任者と研究員の先生方の様子を紹介しました。初任者には「仲間と算数・数学の授業

名古屋市教育センター

指導主事 長 縄 篤 史

づくりを熱く語り合うことのみならず、素朴な悩みの共有を図れること」、研究員には「算数・数学教育の今後を語り合い、名古屋市の算数・数学教育の発展に資すること」が「名数研の魅力」の一つだと思います。私は「個別最適な学びを進めている先生方が仲間と思いを共有しながら協働的な学びで自身の授業力や教師力を高めていけること」にとっても魅力を感じます。その魅力がより一層高まるように「授業を見合う」「授業で語る」ことを更に進めていけるとすばらしいと思います。

さて、先生方にとって「名数研の魅力」とは何か。自身の中だけでとどめておくのではなく、様々な場面で発信していくことが、魅力を広げ仲間を増やしていくことにつながるはずです。ぜひ、今度聞かせてください。

第106回 全国算数・数学教育研究(大阪)大会に参加して

名古屋市立赤星小学校 五十嵐 純

8月2日(金)に大阪で全国算数・数学教育研究大会が対面で行われました。大会では、単元ごとの指導法に関わる研究だけでなく、GIGAスクール構想に対応した実践や個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った実践など、多岐にわたって発表がされました。私は「算数と社会をつなげる力を育てる算数指導」をテーマに発表しました。助言者の先生からは、「日常生活に算数をどのように活用していくのかを考えることは大変意義深い。子ども

自身が算数・数学の有用性を感じられるようにしてほしい」と、今後の研究への気付きを得ることができました。また、安心して学べる心理的安全性の高い学級経営も心掛けていきたいです。

最後に、発表に至るまで名数研の多くの先生方に丁寧な御指導をいただいたことに感謝申し上げます。



第74次 教育研究愛知県集会に参加して

名古屋市立東白壁小学校 津田 雄太

10月19日(土)に県集会に参加しました。数学教育(算数)分科会では、名古屋・尾張・三河地区から合わせて22本の実践報告が行われ、主体的に問題解決に取り組む姿勢を育むことを目指した実践が多くありました。

印象に残った実践の一つに、「うさぎの健康診断」があります。うさぎの飼育と3年「重さ」の学習を関連付けた実践でした。うさぎの目標体重を目指し、与えるえさの量を調整したりうさぎの体重の推移を調べたりする活動を通して

入れ物の重さを差し引いたり、重さの計算の仕方を考えたりする姿が見られました。

愛知教育大学の高井吾朗先生からは「子どもが『今日の算数は楽しかった』ではなく、『今日の算数も楽しかった』と思えるように、一度きりの実践で終わることなく、様々な単元で教材研究をして実践してほしい」とのことでした。

最後に、今回の研修会での発表の機会を与えてくださったことや、名数研の多くの先生方のご指導に、感謝申し上げます。

第111回 数学科中高連絡協議会

第111回数学科中高連絡協議会が、10月16日(水)に中区の前津中学校で開催されました。当日は研究協議に先立ち、前津中学校の阪野史裕先生に2年生「一次関数」、寺澤大成先生に3年生「図形と相似」の授業を公開していただきました。

研究協議会は、小中高合わせて50名以上の先生方の参加があり、中高関連グループで中心になって研究を進めてきた丸の内中学校の坪井大知先生に「中高間を結ぶ教材とその実態～高等学校入学者学力テストの結果を踏まえて～」というテーマで発表していただきました。春の第110回中高連絡研究協議会での発表を受けて、「文字式の計算についての指導法」、「関数

$y=ax^2$ についての指導法」、「平方根についての指導法」についての研究発表が行われました。研究協議では、それぞれの指導法について意見交換が行われ、有意義な協議となりました。会の最後には、義務教育課の掛布昇英先生から、教師が用いる言葉の意味を、子どもたちが同じ意味で捉えていないことがあることに気を付けて指導していくことが大切であるなどのご助言をいただきました。今後も中高間での情報交換の機会を大切に、よりよい数学指導を考えていくことが必要であると考えます。



名数研 研究活動 実践紹介(小学校)

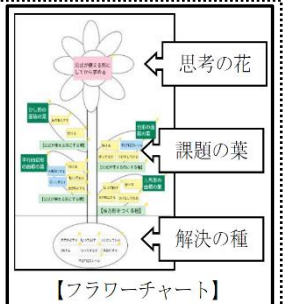
10月23日(水)の研究部会で発表されたA5②グループの実践の紹介。

5年「面積」

めあて 三角形や四角形の面積について、その求め方や公式を考えたり、説明したりすることを通して、面積を求めたり、平行四辺形の見方・考え方を深めたりすることができるようにする。

＜数学の事象について考えていく場面の工夫＞

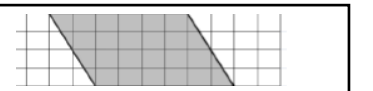
「フラワーチャート」という思考ツールを活用して、面積の求め方を統合していく(右図)。問題を解決した際に使った方法を「解決の種」として、次時以降も同じ方法であれば「解決の種」から「課題の葉」へ色を変えて移動したり、新しい方法であれば「解決の種」へ追加したりして、小単元や内容のまとまりごとに「課題の葉」をまとめさせる。そして、それぞれの「課題の葉」を比較させたり、修正させたりして、共通する数学的な見方・考え方を「思考の花」としてまとめていく。そうすることで、単元を通して同じような数学的な見方・考え方を働かせて、解決した結果を統合することができるようにする。



＜授業の様子＞

本時の問題

次の平行四辺形の面積を求めましょう。



(自力解決後)

T: いろいろな方法で求めてもらったので見ていくね。こちらの方法(図1)はどうやって求めていますか。

C: 「切って」「つけて」います。

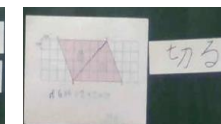
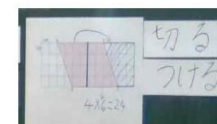
T: こちらの方法(図2)は、どうですか。

C: これも「切って」「つけて」求めています。

T: こちらの方法(図3)はどうか。

T: 「切って」三角形2つにしています。

T: 今日学習したことをもとにしてフラワーチャートをつくりましょう。新しい「解決の種」があれば追加しましょう。そして、「平行四辺形の葉」に今回使った「種」を複製して入れ、「三角形の葉」にもある種は黄色に変えましょう。



(図1)

(図2)

(図3)



【フラワーチャートを作成する様子】

三角形と平行四辺形の面積の求め方について、フラワーチャートを活用し、2つに共通する面積の求め方を統合することができた。また、その後の学習でも、共通する面積の求め方についてフラワーチャートを使って、統合していくことができた。

名数研研究部計画(3学期)

回	月 日	曜	内 容
7	1月14日	火	・発表 小:A6②、B123、B45 中:A2、B1②、B2
8	2月21日	金	・発表 小中合同C 小:A5①、B7 中:A1、B4

